

第三者評価結果の公表事項（母子生活支援施設）

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 旅人とたいようの会

②施設名等

名 称： サン・フラワー華陽

種 別： 母子生活支援施設

施設長氏名： 西脇正博

定 員： 20世帯

所 在 地： 岐阜県

③実施調査日

平成 25年 11月 26日（火）～ 11月 27日（水）

④総評

◇特に評価が高い点

長い歴史を持った施設で、積み重ねた経験と高い理想と意識のもと施設長、職員一丸となって、「子どもの最善の利益」を求め日々母親と子どもの支援に当たっている。建物は市内の中心部に位置し住宅やアパートに囲まれた場所にある。外観は集合住宅のようで施設は目につきにくい。内部の居住部分は各部屋とも鍵付きの2DKに専用バストイレ付き、室内で個々の日常生活が営まれ、利用者のプライバシーの確保と安全面に配慮している。職員は新人から中堅まで順次配置され職員間の信頼関係も強く安定して就労し此处で働けることに喜びを感じている。職員全体にスキルを高める意識が強く研修に積極的に参加している。全県などの研修当番も引き受け計画を練るなどリーダー的存在となっている。新人職員は「先輩職員に何でも話せる」関係づくりをされている中で利用者との信頼関係も深めるよう努力しているし、職員も切磋琢磨し母親・子どもに支援している。管理者は課題に向かい「出来ない」ではなく「どうしたら出来るかを考える」と利用者の支援優先を常に言葉にしている。たとえば職員のアイデアでクリスマスの夜、玄関ノブに母親へのプレゼントを取り付け、大喜びされ母親の心を少しでも満たす経験を与えるなど日々の生活の中で温かい支援が子どもへ繋がるよう細やかな工夫をしている。社会の中で様々な生活経験を重ねてきた母子に、心から安心できる居場所づくりをし生活力がつくよう支援している。

◇改善が求められる点

・理念を簡潔にし利用者や職員がいつでも目に付くようにし、常に振り返り共有されたい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の受審により、あらためて業務を見直すことが出来ました。まだまだ至らない点が多々あることに気がつくとともに、母と子が安心して生活できるサービスとは何かを見つめ直す契機とすることが出来ました。評価結果を真摯に受け止めまして、業務内容の改善に努め、利用者の自立への支援に一層励むつもりです。また、評価委員様におかれましては、施設で暮らす母子家庭の生活内容も見ただけまして、福祉施設としての母子生活支援施設の機能と必要性をご理解していただけたことを何よりの喜びと存じます。

⑥第三者評価結果（別紙）